

交付運用報告書

ハッピーエイジング・ファンド

 ハッピーエイジング20 ハッピーエイジング30
 ハッピーエイジング40 ハッピーエイジング50
 ハッピーエイジング60

追加型投信／内外／資産複合

作成対象期間：2017年7月19日～2018年7月17日

第18期 決算日：2018年7月17日

**受益者の
みなさまへ**

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

当ファンドは、日本及び世界各国の株式や公社債を実質的な主要投資対象とし、中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。当作成期もそれに沿った運用を行いました。ここに、運用状況をご報告申し上げます。

今後とも引続きお引立て賜りますようお願い申し上げます。

第18期末 2018.7.17

	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
基準価額	15,015円	15,148円	14,924円	14,262円	13,015円
純資産総額	10,439百万円	12,738百万円	15,282百万円	6,875百万円	4,186百万円
騰落率*	6.9%	5.2%	3.9%	2.7%	1.3%
期中分配金合計	0円	0円	0円	0円	0円

※ 騰落率は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）を電磁的方法によりご提供することを定めております。運用報告書（全体版）は下記の方法で閲覧いただけます。

なお、ご請求いただいた場合には交付いたしますので、販売会社までお問い合わせください。

▶ 運用報告書（全体版）の閲覧方法

<http://www.sjnk-am.co.jp/>
 にアクセス

 「ファンド検索」等から当ファンドのページを表示して、
 閲覧またはダウンロードすることができます。

損保ジャパン日本興亜アセットマネジメント

 東京都中央区日本橋二丁目2番16号 共立日本橋ビル
 お問い合わせ先：クライアントサービス第二部

（受付時間 営業日の午前9時～午後5時）


0120-69-5432

運用経過

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング20



第18期首	騰落率	第18期末
基準価額		基準価額
14,045円	6.9%	15,015円
	(分配金再投資)	(期中分配金)
	基準価額ベース	合計0円

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング20

当期間、投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。外国株式や国内株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



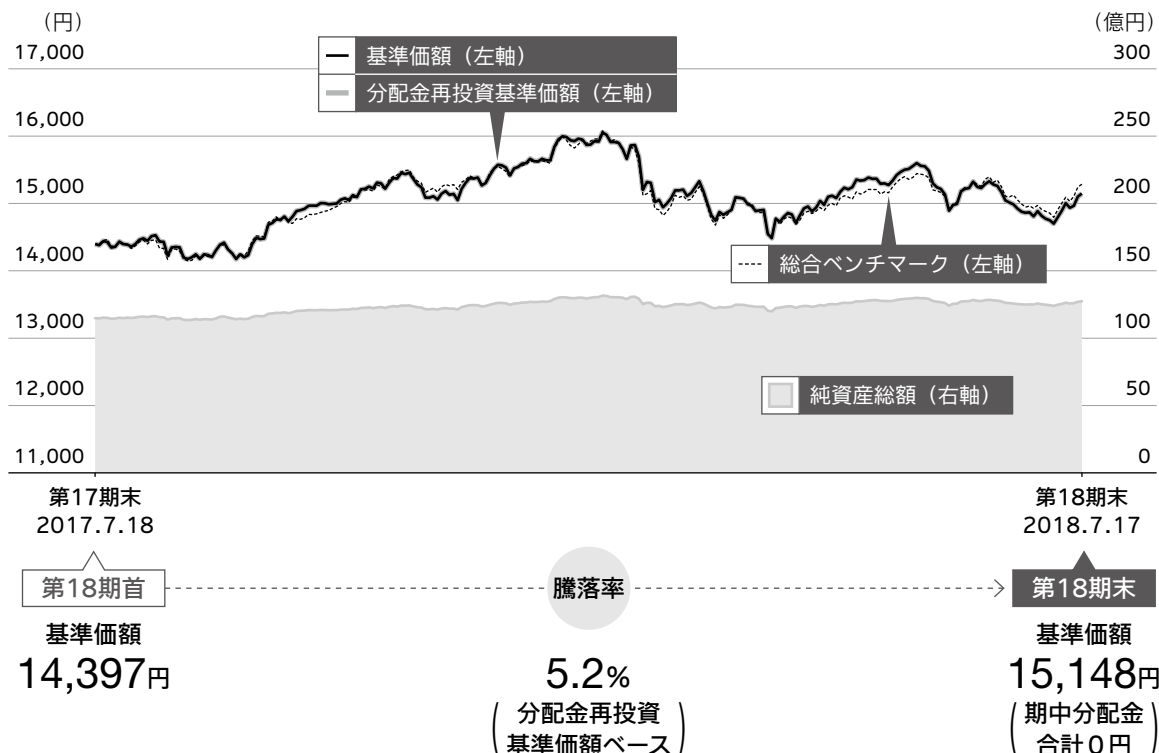
ベビーファンド



マザーファンド

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング30



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング30

当期間、投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。外国株式や国内株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



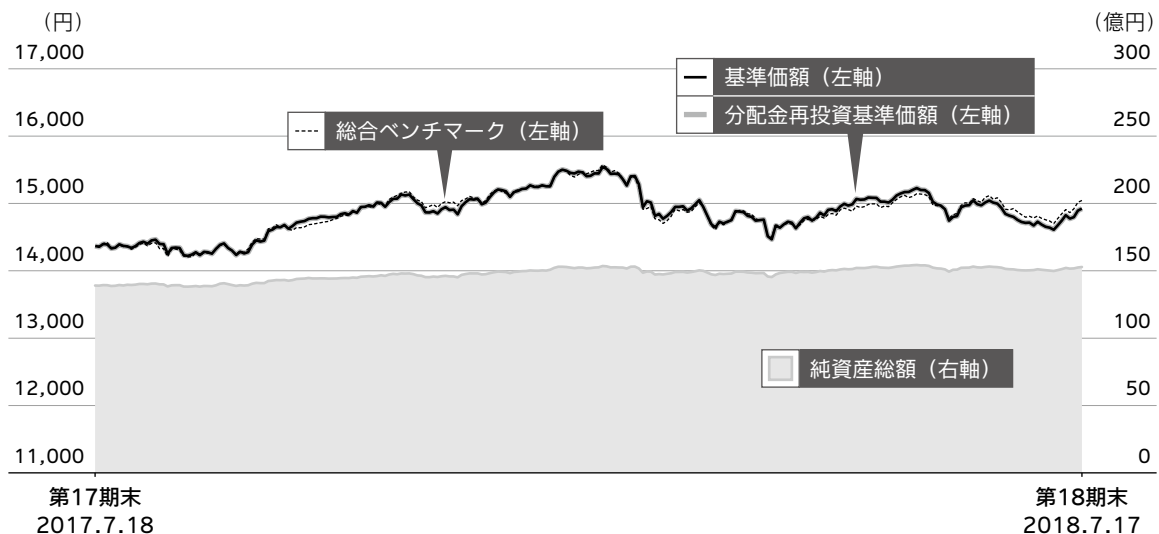
ベビーファンド



マザーファンド

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング40



第18期首

基準価額

14,368円

騰落率

3.9%

(分配金再投資
基準価額ベース)

第18期末

基準価額

14,924円

(期中分配金
合計0円)

- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング40

当期間、投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。外国株式や国内株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



ベビーファンド



マザーファンド

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング50



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング50

当期間、投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。外国株式や国内株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



ベビーファンド



マザーファンド

● 基準価額の推移

📊 ハッピーエイジング60



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

● 基準価額の主な変動要因

ハッピーエイジング60

当期間、投資対象である全てのマザーファンド等の基準価額が上昇したため、当ファンドの基準価額は上昇しました。国内債券や外国株式などの上昇が主な値上がり要因となりました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



ベビーファンド



マザーファンド

● 基準価額の主な変動要因

S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド

騰落率は+4.9%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを下回りましたが、同期間の国内株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

個別銘柄では、本田技研工業、三菱商事、第一生命ホールディングス、ジェイ エフ イー ホールディングス、KDDIなどの保有銘柄が上昇したことで基準価額は上昇しました。

S J A M スモールキャップ・マザーファンド

騰落率は+9.6%となりました。

当ファンドの騰落率はベンチマークを下回りましたが、同期間の国内株式市場が上昇したことから、当ファンドの基準価額も上昇しました。

個別銘柄では、カプコン、ケーズホールディングス、東邦ホールディングス、島忠、アークスなどの保有銘柄が上昇したことで基準価額は上昇しました。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

期中の騰落率は+1.6%となりました。債券の利回りが低下（価格は上昇）したことから基準価額は上昇しました。

損保ジャパンー T C W 外国株式マザーファンド

期中の騰落率は+13.9%となりました。

ファンドで保有する株式の価格上昇に加えて、保有外貨建資産の通貨が概ね対円で上昇したことがプラスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期中の騰落率は+1.5%となりました。

米国債券の利回り上昇（価格は下落）などがマイナス要因となりましたが、円安ドル高や円安ユーロ高により為替要因がプラスとなったことから、基準価額は上昇しました。

- 本報告書では、ベビーファンドとマザーファンドを下記の様に統一して表記しています。



ベビーファンド



マザーファンド

● 1万口当たりの費用明細

ハッピーエイジング20

期中の総費用率は **1.685%** です。

項目	第18期 2017.7.19～2018.7.17		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	235円	1.583%	$(a) \text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率 (年率)} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,865円です。
(投信会社)	(94)	(0.635)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(133)	(0.894)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	11	0.076	$(b) \text{売買委託手数料} = \frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(11)	(0.075)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.003	$(c) \text{有価証券取引税} = \frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.003)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.023	$(d) \text{その他費用} = \frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.019)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.003)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	251	1.685	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ハッピーエイジング30

期中の総費用率は **1.538%** です。

項目	第18期 2017.7.19～2018.7.17		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	219円	1.454%	$(a) \text{信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率（年率）} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は15,072円です。
(投信会社)	(86)	(0.571)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(125)	(0.829)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	9	0.060	$(b) \text{売買委託手数料} = \frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(9)	(0.060)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.002	$(c) \text{有価証券取引税} = \frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.002)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	3	0.022	$(d) \text{その他費用} = \frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(3)	(0.019)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	232	1.538	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



ハッピーエイジング40

期中の総費用率は **1.353%** です。

項目	第18期 2017.7.19~2018.7.17		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	192円	1.292%	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率（年率）× $\frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,861円です。
（投信会社）	（ 75）	（0.506）	ファンドの運用の対価
（販売会社）	（109）	（0.732）	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
（受託会社）	（ 8）	（0.054）	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	6	0.043	(b)売買委託手数料＝ $\frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
（株式）	（ 6）	（0.042）	
（投資信託受益証券）	（ 0）	（0.001）	
（投資証券）	（ 0）	（0.000）	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	(c)有価証券取引税＝ $\frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
（株式）	（ 0）	（0.001）	
（投資信託受益証券）	（ 0）	（0.000）	
（投資証券）	（ 0）	（0.000）	
(d) その他費用	2	0.016	(d)その他費用＝ $\frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
（保管費用）	（ 2）	（0.013）	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
（監査費用）	（ 0）	（0.002）	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
（その他）	（ 0）	（0.001）	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	201	1.353	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

ハッピーエイジング50

期中の総費用率は **1.150%** です。

項目	第18期 2017.7.19～2018.7.17		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	157円	1.109%	$(a) \text{ 信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率 (年率)} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は14,194円です。
(投信会社)	(63)	(0.442)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(87)	(0.614)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(8)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	4	0.026	$(b) \text{ 売買委託手数料} = \frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(4)	(0.025)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.001)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.001	$(c) \text{ 有価証券取引税} = \frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.001)	
(投資信託受益証券)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	2	0.014	$(d) \text{ その他費用} = \frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.009)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.004)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	163	1.150	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。



ハッピーエイジング60

期中の総費用率は **0.946%** です。

項目	第18期 2017.7.19～2018.7.17		項目の概要
	金額	比率	
(a) 信託報酬	120円	0.926%	$(a) \text{ 信託報酬} = \text{期中の平均基準価額} \times \text{信託報酬率 (年率)} \times \frac{\text{期中の日数}}{\text{年間の日数}}$ 期中の平均基準価額は12,948円です。
(投信会社)	(49)	(0.377)	ファンドの運用の対価
(販売会社)	(64)	(0.495)	購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理等の対価
(受託会社)	(7)	(0.054)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売買委託手数料	1	0.009	$(b) \text{ 売買委託手数料} = \frac{\text{期中の売買委託手数料}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(株式)	(1)	(0.009)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(c) 有価証券取引税	0	0.000	$(c) \text{ 有価証券取引税} = \frac{\text{期中の有価証券取引税}}{\text{期中の平均受益権口数}}$ 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株式)	(0)	(0.000)	
(投資証券)	(0)	(0.000)	
(d) その他費用	1	0.011	$(d) \text{ その他費用} = \frac{\text{期中のその他費用}}{\text{期中の平均受益権口数}}$
(保管費用)	(1)	(0.005)	有価証券等の保管等のために、海外の銀行等に支払う費用
(監査費用)	(1)	(0.005)	監査法人に支払うファンドの監査にかかる費用
(その他)	(0)	(0.001)	信託事務の処理にかかるその他の費用等
合計	123	0.946	

注1. 期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、このファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。

注2. 金額欄は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

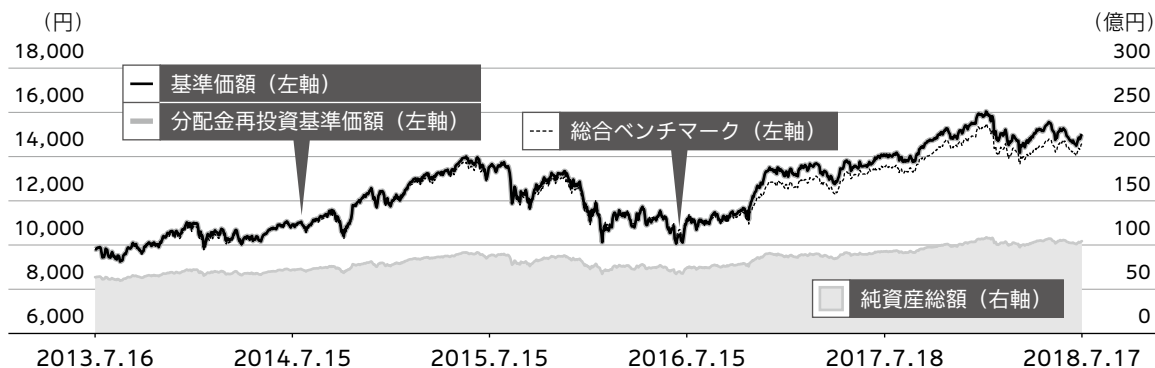
注3. 比率欄は「1万口当たりのそれぞれの費用金額」を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

● 最近5年間の基準価額等の推移

2013.7.16～2018.7.17



ハッピーエイジング20



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2013年7月16日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

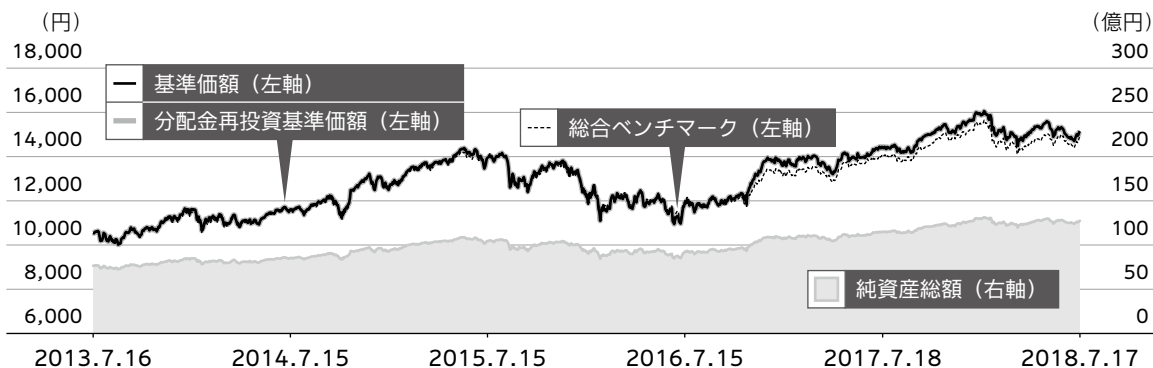
決算日	2013.7.16 決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日
基準価額 (円)	9,828	10,930	13,543	11,099	14,045	15,015
期中分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	11.2	23.9	△ 18.0	26.5	6.9
ベンチマーク騰落率 (%)	—	10.8	23.9	△ 17.0	21.0	7.6
純資産総額 (百万円)	6,375	7,212	8,801	7,416	9,271	10,439

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は65ページをご参照ください。▶

2013.7.16~2018.7.17

ハッピーエイジング30



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2013年7月16日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

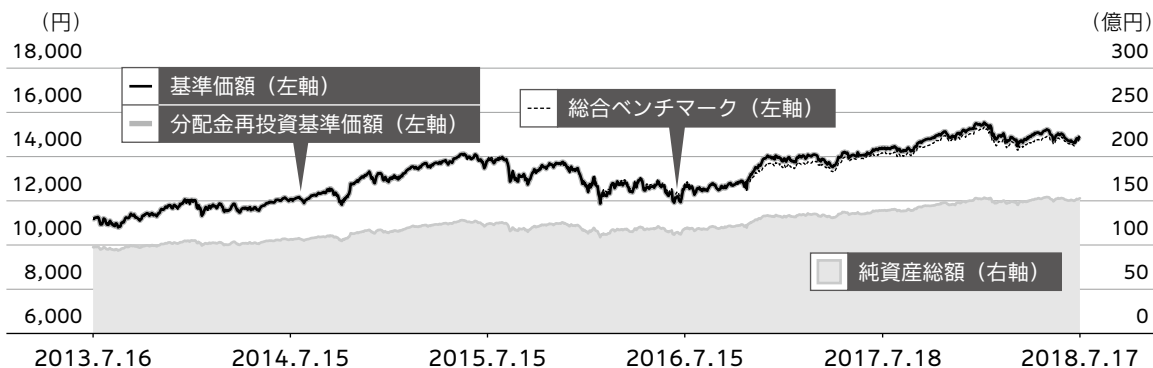
決算日	2013.7.16 決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日
基準価額 (円)	10,552	11,614	13,944	11,894	14,397	15,148
期中分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	10.1	20.1	△ 14.7	21.0	5.2
ベンチマーク騰落率 (%)	—	9.7	20.6	△ 14.1	16.8	6.2
純資産総額 (百万円)	7,661	8,543	10,450	9,226	11,485	12,738

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は65ページをご参照ください。▶

2013.7.16~2018.7.17

ハッピーエイジング40



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2013年7月16日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2013.7.16 決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日
基準価額 (円)	11,196	12,075	13,816	12,636	14,368	14,924
期中分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	7.9	14.4	△ 8.5	13.7	3.9
ベンチマーク騰落率 (%)	—	7.9	14.9	△ 8.2	11.0	4.7
純資産総額 (百万円)	9,756	10,651	12,378	11,857	13,906	15,282

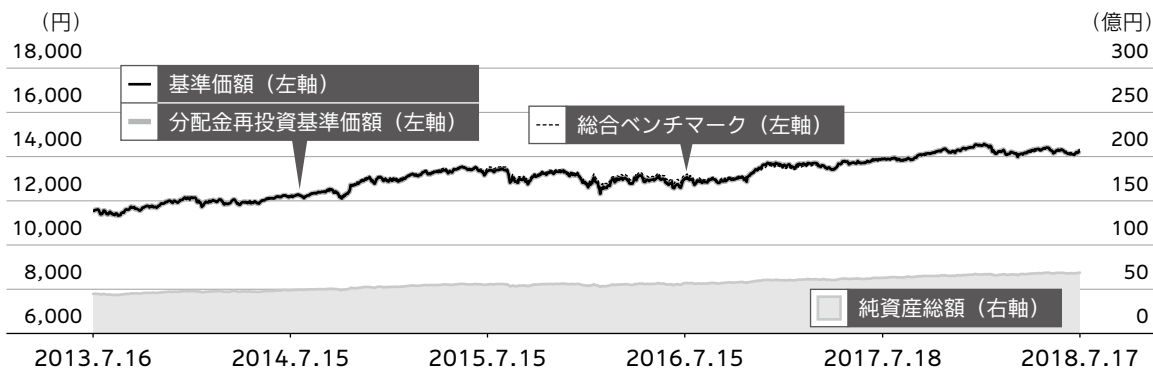
- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は65ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

2013.7.16~2018.7.17

ハッピーエイジング50



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2013年7月16日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2013.7.16 決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日
基準価額 (円)	11,555	12,215	13,347	13,007	13,890	14,262
期中分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	5.7	9.3	△ 2.5	6.8	2.7
ベンチマーク騰落率 (%)	—	6.0	9.8	△ 2.2	5.4	3.3
純資産総額 (百万円)	4,480	4,908	5,534	5,689	6,297	6,875

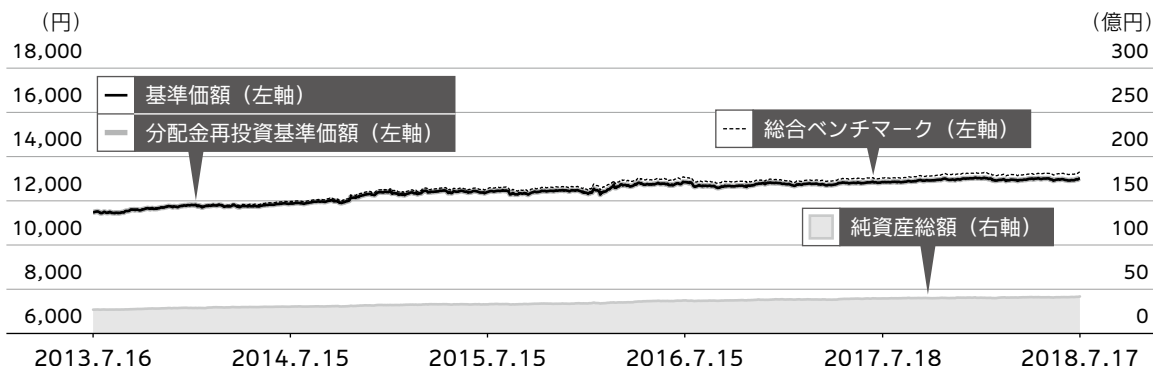
- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は65ページをご参照ください。▶

2013.7.16~2018.7.17



ハッピーエイジング60



- 分配金再投資基準価額および総合ベンチマークの推移は、2013年7月16日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。
- 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税引前）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- 分配金を再投資するかどうかについてはお客さまがご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入金額により課税条件も異なります。従って、お客さまの損益の状況を示すものではありません。
- 当ファンドの総合ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した指数で、設定日を10,000として、委託会社にて指数化したものです。

決算日	2013.7.16 決算日	2014.7.15 決算日	2015.7.15 決算日	2016.7.15 決算日	2017.7.18 決算日	2018.7.17 決算日
基準価額 (円)	11,485	11,883	12,399	12,843	12,846	13,015
期中分配金合計（税引前） (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資 基準価額騰落率 (%)	—	3.5	4.3	3.6	0.0	1.3
ベンチマーク騰落率 (%)	—	4.2	4.8	4.1	△ 0.2	2.0
純資産総額 (百万円)	2,695	3,031	3,292	3,737	3,967	4,186

- ベンチマークは、個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均して算出した総合ベンチマークです。

指数に関する詳細は65ページをご参照ください。▶

最近5年間の基準価額等の推移

● 投資環境

1. 国内株式市況

TOPIXは7.7%の上昇となりました。

期初はトランプ政権への不透明感や北朝鮮を巡る地政学リスクなどが意識される場面もありましたが、好調な国内企業業績や米国での税制改革法の成立を受けて、株価は上昇しました。その後は、米雇用統計の内容からインフレ加速への懸念が強まり、世界の株式市場が軒並み大幅安となったことから、国内株式市場も大きく下落しました。米中貿易戦争への懸念を背景に調整局面が続きましたが、一部企業での好決算や自社株買いの発表から、上昇に転じました。期末にかけては、イタリアでの政情不安や貿易戦争への懸念再燃から軟調に推移しましたが、米中関税発動後におけるいったんの悪材料出尽くし感や円安の進行から、反転して期を終えました。

2. 国内債券市況

国内債券の利回りは低下（価格は上昇）しました。

日銀によるイールドカーブ・コントロール政策のもと、10年ゾーンの国内債券の利回りは概ね0%~0.1%の狭いレンジの中で推移し、期を通じては小幅低下しました。

一方、相対的に金利変動余地の大きい超長期ゾーンについては、一部投資家の利回りを求める動きから、10年ゾーンの利回りよりも大きく低下しました。

事業債のスプレッドについては、期を通じて概ね横這い推移したものの、相対的に高い利回り水準であることから、国債をアウトパフォームしました。

3. 外国株式市況

○米国株式市場

米国株式市場は上昇しました。

期初から8月までは米朝間の緊張感の高まりといった地政学リスクを背景に株価は一時的に下落する場面がありましたが、その後1月まで米国の堅調な経済指標や、トランプ政権の減税政策等が好感され、概ね上昇基調が続きました。

2月には雇用等に関する経済指標の好調さを背景に、FRB（米連邦準備理事会）が利上げに積極的な姿勢を示すとの憶測から、株価は大きく下落しました。また、3月にもIT企業による不祥事等をきっかけに株価が下落する場面がありました。

4月以降は米中間の貿易摩擦激化等の政治問題が懸念されたものの、引き続き堅調な米国経済指標や、トランプ政権の減税政策の後押し等もあり米国企業の第1四半期決算が好調であったことなどを背景に、株価は上昇しました。

○欧州株式市場

欧州株式市場は概ね横ばいでした。

期初から8月にかけてはスペインで発生したテロ事件等政治リスクの高まりから株価は下落しましたが、9月にECB（欧州中央銀行）が2017年のユーロ圏の成長率見通しを引き上げたことなどが好感され、1月終わりにかけて株価は上昇しました。

2月に入り、米国でFRBが利上げに積極的との観測が強まる中で、欧州でも株価は下落しました。

その後4月までは原油価格の上昇やユーロ安の進行等が追い風となり株価は反発しましたが、5月にイタリア、スペインで政治の不透明感が強まったことを理由にイタリア国債が急落したことや、米中貿易摩擦激化等を受けたリスク回避の流れから弱含みました。

○アジア株式市場

アジア株式市場は小幅に上昇しました。

期初から年末にかけては北朝鮮など地政学リスクを意識し株価が一時的に下落する場面がありましたが、各国で景気刺激策や税制改革が浮上したことや、IMF（国際通貨基金）が世界経済の成長率見通しを上方修正したこと等が好感され、株価は上昇しました。

1月には米国を中心とした世界的な株高基調や原油高が追い風となって株価は上昇し、香港ハンセン指数が11年ぶりに市場最高値を更新しましたが、2月に入ると世界的な株価の急落や中国での金融規制強化への警戒感からアジアの株価も大幅下落しました。

その後各国の堅調な経済指標等を理由に株価が上昇する場面もありましたが、3月以降は米中貿易摩擦懸念を背景に軟調に推移し、1年を通してみると小幅な上昇にとどまりました。

4. 外国債券市況

○米国債券市場

当期の米国10年債利回りは、上昇（価格は下落）しました。

米国10年債利回りは、米国景気が堅調に推移する中、FRB（連邦準備制度理事会）が利上げとバランスシート圧縮を継続したことや、原油高によるインフレへの警戒感や財政悪化懸念の高まりを受けて上昇しました。期初に2.2%台であった利回りは、期末には2.8%台となりました。

○欧州債券市場

当期のドイツ10年債利回りは、低下（価格は上昇）しました。

期初に0.5%台であったドイツ10年債利回りは、ECB（欧州中央銀行）の金融政策正常化観測の高まりや米国債券の利回り上昇を背景に、2月にかけて0.7%台まで上昇しました。しかし、その後は、世界的な株価下落やイタリア等の政治不安を受けて市場のリスク回避姿勢が強まったことや、ECBが利上げに対して慎重な姿勢を示したことから、利回りは低下し、期末には0.3%台となりました。

○為替相場

当期の米ドル円相場は、小幅に円安ドル高となりました。

期初に112円近傍であったドル円相場は、米国の保護主義的な通商政策への警戒感が広がるとともに、世界的な株価下落によりリスク回避傾向が高まったことなどから、3月には一時104円台まで円高ドル安が進行しました。しかし、その後は、米国金利上昇による日米金利差の拡大や朝鮮半島情勢を巡る緊張緩和を背景に、円安ドル高傾向となり、期末には112円台半ばとなりました。

● 当該投資信託のポートフォリオ

ハッピーエイジング・ファンド

各ファンドの資産アロケーションについては、当社が決定した基準資産配分比率を、各々ほぼ維持する戦略を採りました。

なお、マイナス金利政策の継続から、国内債券は長期的な収益率に達するまでの時間が想定以上にかかりそうな状況です。そのような環境を踏まえ、2018年4月13日より、国内債券の比率が高いハッピーエイジング60の基準配分比率を以下のように見直しました。

(～4/12) 国内債券：82%、国内株式：6%、外国債券：6%、外国株式：4%、短期資産：2%

(4/13～) 国内債券：72%、国内株式：8%、外国債券：16%、外国株式：2%、短期資産：2%

ハッピーエイジング20実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	2.0%	2.0%	△0.0%
外国債券	6.1%	6.0%	0.1%
国内株式	51.3%	52.0%	△0.7%
外国株式	34.0%	33.0%	1.0%
エマージング株式	4.7%	5.0%	△0.3%
短期資産	1.9%	2.0%	△0.1%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング30実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	7.9%	8.0%	△0.1%
外国債券	20.3%	20.0%	0.3%
国内株式	43.5%	44.0%	△0.5%
外国株式	21.7%	21.0%	0.7%
エマージング株式	4.7%	5.0%	△0.3%
短期資産	2.0%	2.0%	△0.1%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング40実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	32.7%	33.0%	△0.3%
外国債券	15.3%	15.0%	0.3%
国内株式	30.7%	31.0%	△0.3%
外国株式	14.5%	14.0%	0.5%
エマージング株式	4.9%	5.0%	△0.1%
短期資産	2.0%	2.0%	△0.1%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング50実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	56.7%	57.0%	△0.3%
外国債券	11.3%	11.0%	0.3%
国内株式	18.9%	19.0%	△0.1%
外国株式	8.3%	8.0%	0.3%
エマージング株式	3.0%	3.0%	△0.0%
短期資産	1.8%	2.0%	△0.2%
合計	100.0%	100.0%	—

ハッピーエイジング60実質組入比率

	実質組入比率	基本アロケーション	差
国内債券	71.6%	72.0%	△0.4%
外国債券	16.0%	16.0%	0.0%
国内株式	8.0%	8.0%	△0.0%
外国株式	2.1%	2.0%	0.1%
エマージング株式	0.0%	0.0%	0.0%
短期資産	2.3%	2.0%	0.3%
合計	100.0%	100.0%	—

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、99.1%です。当期も、当社独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき、銘柄入替を行いました。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、デンソー、住友電気工業、日産自動車などでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、三菱商事、みずほフィナンシャルグループ、野村不動産ホールディングスなどでした。

S J AMスモールキャップ・マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率は、98.9%です。

主な購入（ウェイトアップ）銘柄は、沢井製薬、豊田合成、シップヘルスケアホールディングスなどでした。

主な売却（ウェイトダウン）銘柄は、カプコン、キャノンマーケティングジャパン、大和工業などでした。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略は、日銀によるイールドカーブ・コントロール政策のもと、主に超長期ゾーンをオーバーウェイトするロングデュレーション戦略を基本としました。

また、イールドカーブ上の相対的に割安な年限をオーバーウェイトするレラティブ・バリュー戦略もと、戦略の分散化を狙いました。

債券種別戦略は、非国債をオーバーウェイトする戦略を継続しました。

個別銘柄選択は、相対的に利回り水準の高い生保の劣後債や円建外債等を中心とした組入れを継続しました。

損保ジャパニーTCW外国株式マザーファンド

期を通して株式の組入比率を高位に維持しました。期末の組入比率（対純資産総額比）は、95.1%です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

期を通して債券の組入比率は概ね高位に維持しました。

- ・国別配分

ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更しました。

- ・デュレーション・残存期間構成戦略

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更しました。

なお、為替ヘッジは行っておりません。

● 当該投資信託のベンチマークとの差異

当期間、「S J A M スモールキャップ・マザーファンド」、「損保ジャパン T C W 外国株式マザーファンド」、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「エマージング株式」の騰落率はベンチマーク（日本株式は対TOPIX）を上回り、「S J A M ラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」の騰落率はベンチマーク（日本株式は対TOPIX）を下回りました。

その結果、各ファンドにおける総合ベンチマークとの差異及び差異要因は以下の通りとなりました。

ハッピーエイジング20

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+7.6%）を0.7%下回りました。

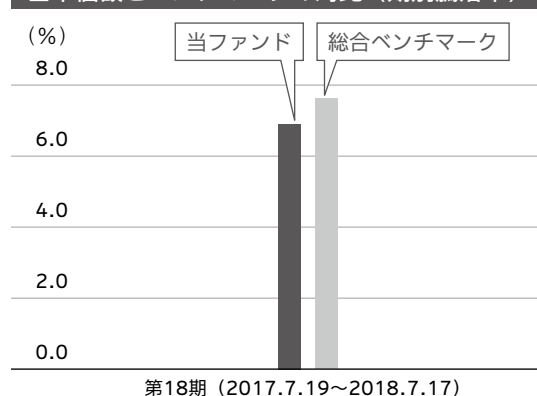
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



当該投資信託のベンチマークとの差異

ハッピーエイジング30

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+6.2％）を1.0％下回りました。

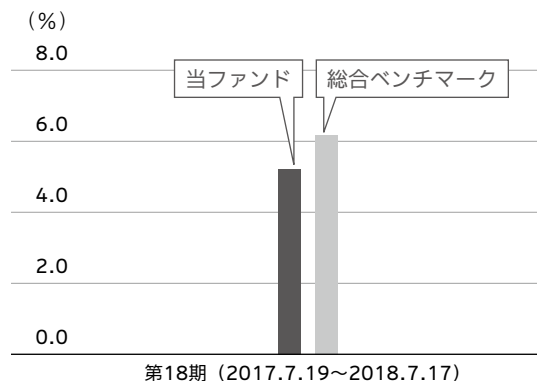
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



ハッピーエイジング40

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+4.7％）を0.8％下回りました。

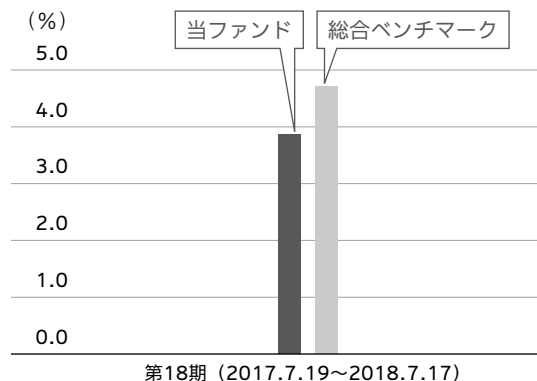
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）





ハッピーエイジング50

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+3.3%）を0.7%下回りました。

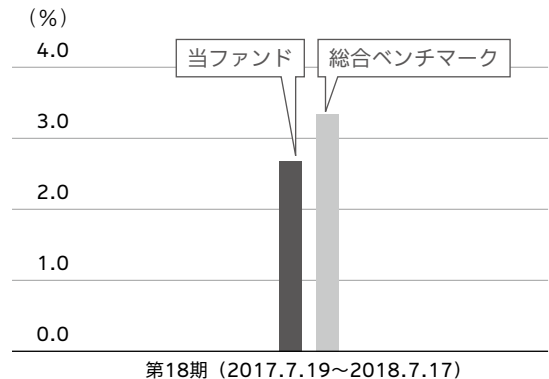
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



ハッピーエイジング60

基準価額の騰落率は総合ベンチマークの騰落率（+2.0%）を0.7%下回りました。

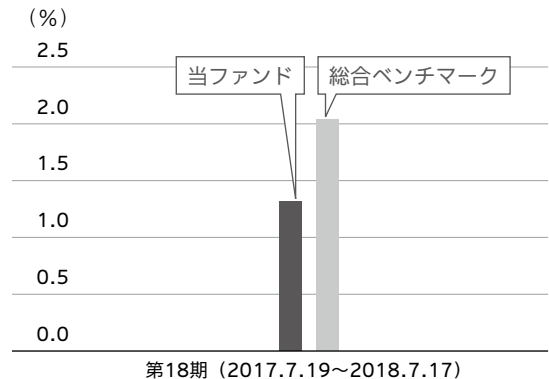
【プラス要因】

マザーファンド全体の対ベンチマーク収益率

【マイナス要因】

信託報酬等

基準価額とベンチマークの対比（期別騰落率）



期を通じて各マザーファンドを組入れておりましたので、以下ではマザーファンドとベンチマークとの差異の要因分析等についてご説明致します。

SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（＋7.9％）を3.1％下回りました。

業種構成では、情報・通信業、医薬品のオーバーウェイト、ガラス・土石製品のアンダーウェイトなどがプラス要因に、鉄鋼、銀行業、海運業のオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、三井住友トラスト・ホールディングス、ジェイ エフ イー ホールディングス、日本郵船のオーバーウェイトなどがプラス要因に、ツムラ、マツダ、三菱重工業のオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

SJAMスモールキャップ・マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、Russell/Nomura Small Cap（配当を含むトータルリターンインデックス）の騰落率（＋12.0％）を2.5％下回りました。

業種構成では、パルプ・紙、金属製品のアンダーウェイト、電気機器のオーバーウェイトなどがプラス要因に、銀行業、その他金融業のオーバーウェイト、情報・通信業のアンダーウェイトなどがマイナス要因になりました。

個別銘柄では、カブコン、シップヘルスケアホールディングス、日新製鋼のオーバーウェイトなどがプラス要因に、シチズン時計、ゼビオホールディングス、青山商事のオーバーウェイトなどがマイナス要因になりました。

損保ジャパン日本債券マザーファンドとベンチマークとの差異

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の騰落率（＋1.2％）を0.4％上回りました。

金利戦略は主に、2018年2月から3月までの超長期ゾーンをオーバーウェイトするロングデュレーション戦略を中心にプラスとなりました。

債券種別戦略は主に事業債、円建外債、RMBSのオーバーウェイトがプラスとなりました。

個別銘柄戦略は東レ債の保有がマイナスだったものの、主に事業債・円建外債の銘柄選択がプラスとなりました。

損保ジャパンTCW外国株式マザーファンド

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の騰落率（＋9.7％）を4.2％上回りました。

米国のオーバーウェイト等の地域配分や、米国株式の銘柄選択要因がプラスに寄与しました。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

マザーファンドの騰落率は、ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の騰落率（＋1.7％）を0.1％下回りました。

主に欧州のショートデュレーション戦略がマイナス要因となりました。

エマージング株式

ベンチマーク（MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース））の騰落率（＋1.8％）を1.3％上回りました。

● 分配金

中長期的な観点から、複利効果による資産の成長を目指すために分配を抑えるファンドです。



ハッピーエイジング・ファンド

収益分配金については、基準価額の水準等を勘案し、各ファンドで当期は分配を行いませんでした。なお、収益分配に充てなかった収益は、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて引き続き元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり・税引前)

項目	第18期 2017.7.19～2018.7.17				
	ハッピーエイジング20	ハッピーエイジング30	ハッピーエイジング40	ハッピーエイジング50	ハッピーエイジング60
当期分配金	—	—	—	—	—
(対基準価額比率)	— %	— %	— %	— %	— %
当期の収益	—	—	—	—	—
当期の収益以外	—	—	—	—	—
翌期繰越分配対象額	9,551	7,945	6,586	4,718	3,015

注1. 「当期の収益」は「経費控除後の配当等収益」および「経費控除後の有価証券売買等損益」から分配に充当した金額です。
また、「当期の収益以外」は「収益調整金」および「分配準備積立金」から分配に充当した金額です。

注2. 円未満は切り捨てており、当期の収益と当期の収益以外の合計が当期分配金（税引前）に合致しない場合があります。

注3. 当期分配金の対基準価額比率は当期分配金（税引前）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率で、ファンドの収益率とは異なります。

● 今後の運用方針

ハッピーエイジング・ファンド

マザーファンドの受益証券等への投資を通して、国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式および債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。

SJAMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

SJAMスモールキャップ・マザーファンド

当社の投資哲学に基づいた運用プロセスを堅持し、独自の株式評価モデルで算出した相対的割安度に基づき銘柄を選択していくことを基本方針とします。今後も、固有の割安要因に着目した個別銘柄選択を中心とするポートフォリオ構築によって、中長期的に着実な信託財産の成長を目指します。

損保ジャパン日本債券マザーファンド

金利戦略については、相場環境に応じてカーブ戦略を中心に機動的に変更する方針です。

債券種別戦略については、非国債をオーバーウェイトする戦略を継続する方針です。

個別銘柄選択は、海外のクレジット環境の安定度が低下している円建外債については、海外情勢に留意し、信用力対比で投資妙味のある銘柄の組み入れを慎重に検討する方針です。

損保ジャパン・TCW外国株式マザーファンド

外国株式については、米国を中心に企業業績は堅調であり、今後もその傾向は継続するものと見えています。その一方で、米中の貿易戦争が懸念材料であり注視していく必要があります。世界的に金融緩和の縮小が予測される中、引き続き高い成長と安定したキャッシュフローが見込める企業に注目しています。

当ファンドは各ストラテジーの投資比率を適宜調整し、個別企業のファンダメンタルズ分析に注力し、いずれの景気局面においても恩恵を十分に受けられるポートフォリオを構築してまいります。

損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

国別配分戦略は、ドルやユーロの通貨戦略とユーロ圏の国別配分戦略を中心に、相場動向に合わせて、ポジションを機動的に変更し、収益機会を増やす方針とします。

デュレーション戦略は、米国と欧州を中心に相場動向に合わせて、機動的にポジションを変更し、収益機会を増やす方針とします。

● お知らせ

ハッピーエイジング20

ハッピーエイジング30

ハッピーエイジング40

ハッピーエイジング50

ハッピーエイジング60

デリバティブ取引等の利用を価格等の変動リスクのヘッジと現物投資の代替に限定するため、投資信託約款に所要の変更を行いました（2017年9月16日）。

信用リスク集中回避のための投資制限に関する記載を追加するため、投資信託約款に所要の変更を行いました（2017年10月2日）。

公告の方法を「日本経済新聞に掲載」から「電子公告」へ変更するため、投資信託約款に所要の変更を行いました（2018年1月15日）。

受益者の利便性向上のため、投資信託約款の「資金の借入額の限度に関する記載」の変更を行いました（2018年1月15日）。

信託報酬を引き下げることが受益者に望ましいと考え、委託者および受託者の信託報酬の総額を、純資産総額に対して年率0.940%（税抜）～年率1.620%（税抜）から、年率0.860%（税抜）～年率1.470%（税抜）に変更するため、投資信託約款に所要の変更を行いました（2018年4月13日）。

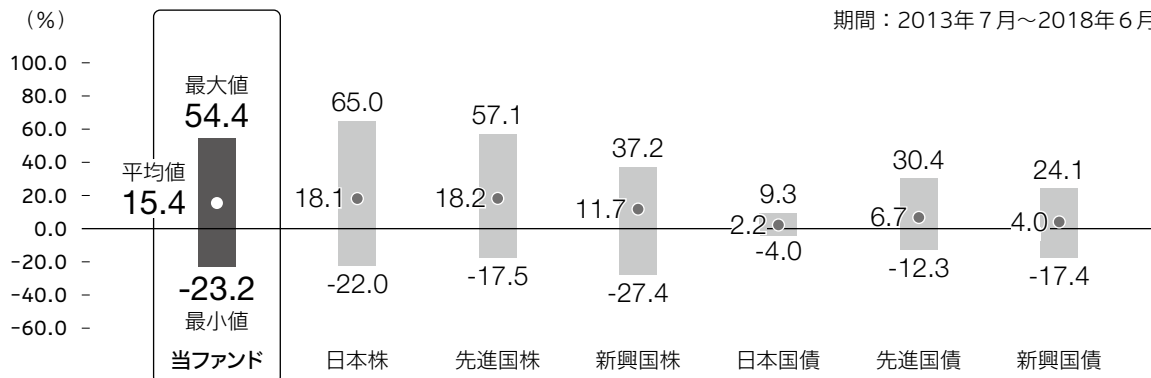
● 当該投資信託の概要

商品分類	追加型投信／内外／資産複合	
信託期間	無期限	
運用方針	中長期的に信託財産の着実な成長を目標として運用を行います。	
主要投資対象	 ハッピーエイジング20/30/40/50/60 「S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド」、「S J AMスモールキャップ・マザーファンド」、「損保ジャパン日本債券マザーファンド」、「損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド」、「損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド ^{※1} 」の受益証券およびエマージング株式又はエマージング株式を主要投資対象とする証券投資信託 ^{※2} ※1 運用スタイル毎のアロケーションと北米株式の運用指図に関する権限を、TCW INVESTMENT MANAGEMENT COMPANYに委託します。 ※2 パッシブ運用を行う証券投資信託受益証券を組入れる可能性があります。	
	 S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド 日本を除く世界各国の公社債
	 S J AMスモールキャップ・マザーファンド わが国の株式	 損保ジャパンーTCW 外国株式マザーファンド 日本を除く世界各国の株式
	 損保ジャパン日本債券マザーファンド 日本の公社債	
運用方法	① 国内株式・国内債券にとどまらず世界各国の株式及び債券に積極的に分散投資を行うことによって、リスクを軽減しつつ信託財産の着実な成長と安定した収益の確保を目指します。 ② 長期的な視点から基準資産配分比率を決定し、当該比率をめどに投資を行います。 ③ 各ファンドの運用は、以下の個別資産毎のベンチマーク（運用を評価するための指標）を基準資産配分比率で加重平均したものを総合ベンチマークとし、これを上回る運用成果を目指します。 国内株式：東証株価指数（TOPIX） 国内債券：NOMURA-BPI総合指数 外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース） 外国株式：MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース） エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース） 短期資産：有担コール翌日物	
分配方針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ① 分配対象額の範囲は、繰越分を含めた利子、配当収入と売買益（評価損益を含みます。）等の全額とします。 ② 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準等を勘案して決定します。ただし、分配対象収益が少額の場合には分配を行わないことがあります。	

● 代表的な資産クラスとの騰落率の比較

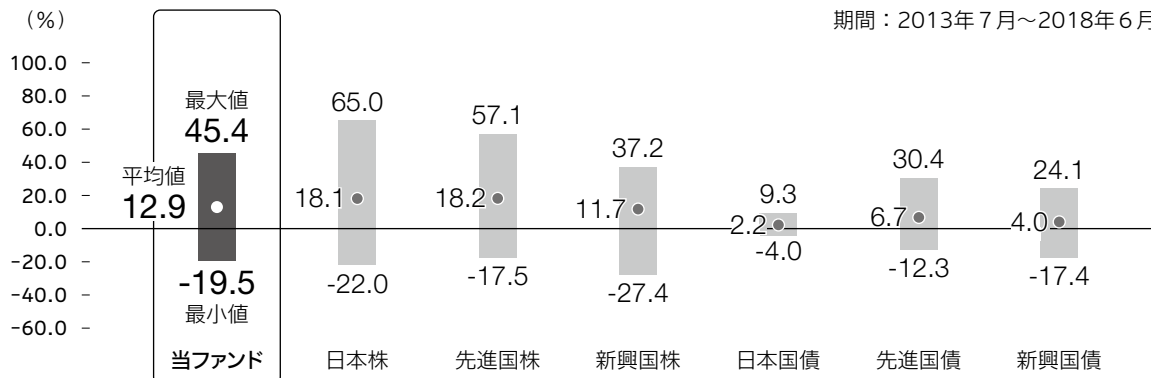
📊 ハッピーエイジング20

期間：2013年7月～2018年6月



📊 ハッピーエイジング30

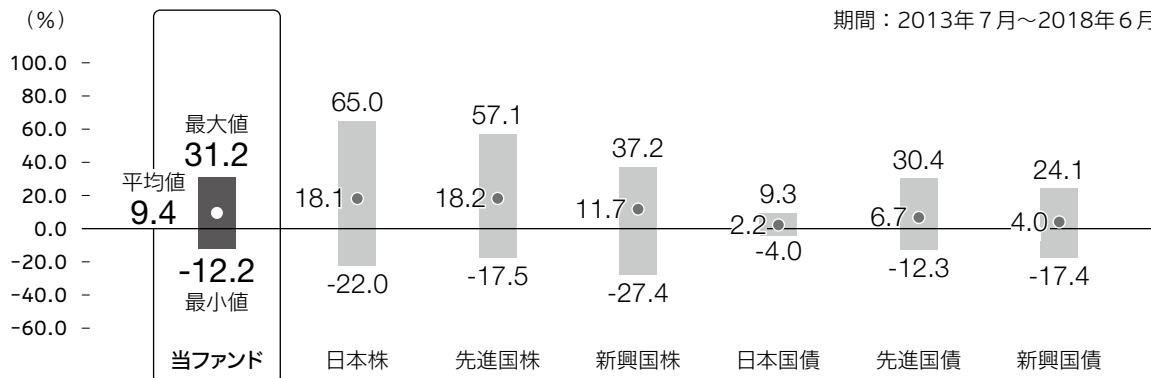
期間：2013年7月～2018年6月



代表的な資産クラスとの騰落率の比較

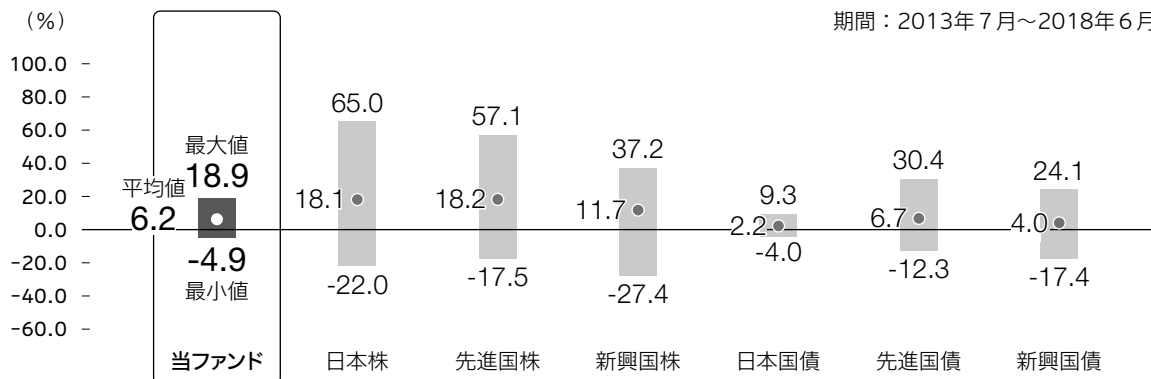
ハッピーエイジング40

期間：2013年7月～2018年6月

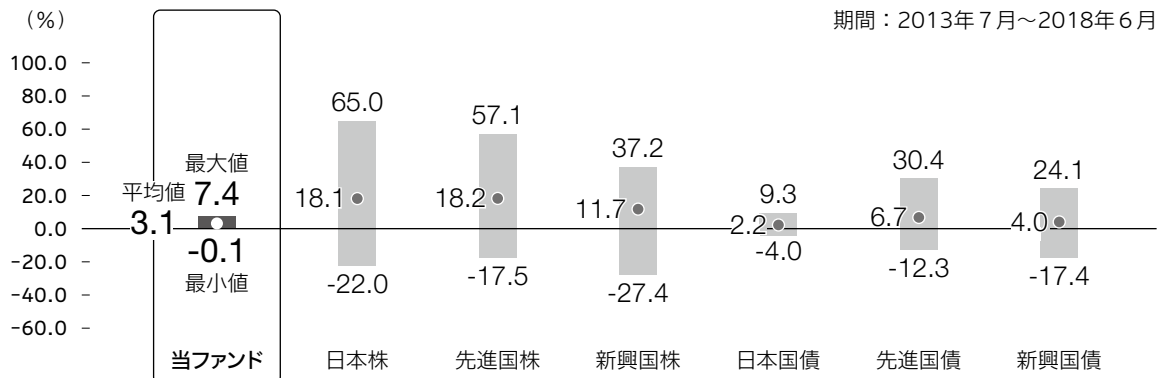


ハッピーエイジング50

期間：2013年7月～2018年6月



ハッピーエイジング60



＊ 上記期間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

＊ 各資産クラスの指数

日本株	東証株価指数（TOPIX）（配当込み）
先進国株	MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）
新興国株	MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）
日本国債	NOMURA-BPI国債
先進国債	FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）
新興国債	JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバースファイド（円ベース）

※ 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- 当ファンドについては、分配金（税引前）再投資基準価額の騰落率です。
- 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。
- 上記の騰落率は直近月末から60ヶ月遡った算出結果であり、決算日に対応した数値とは異なります。

指数に関する詳細は65～66ページをご参照ください。

当該投資信託のデータ

ハッピーエイジング20

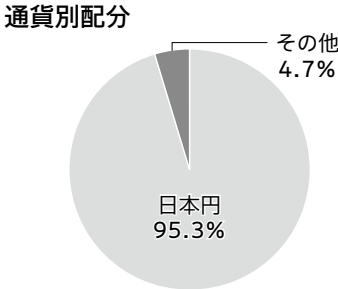
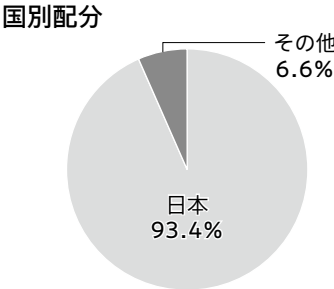
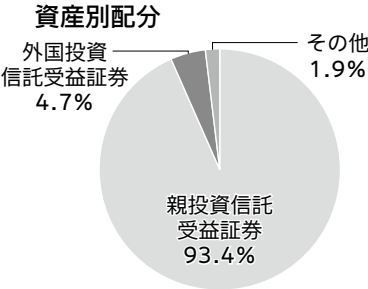
● 当該投資信託の組入資産の内容

※ 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第18期末 2018.7.17
損保ジャパン T C W外国株式マザーファンド	34.0%
S J A Mラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	25.9%
S J A Mスモールキャップ・マザーファンド	25.4%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	6.1%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.7%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	2.0%

注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。



注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

● 純資産等

項目	第18期末 2018.7.17
純資産総額	10,439,689,943円
受益権総口数	6,952,858,168口
1 万口当たり基準価額	15,015円

※ 当期中における追加設定元本額は1,489,193,062円、同解約元本額は1,137,446,811円です。

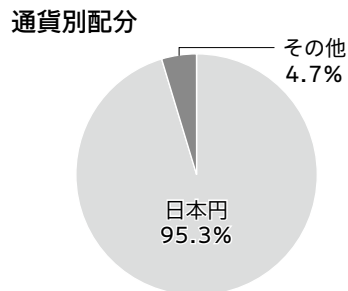
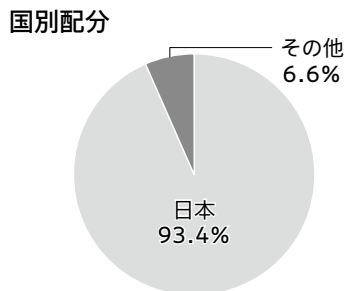
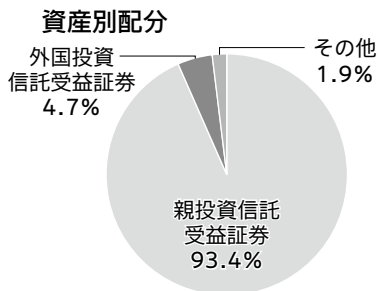
● 当該投資信託の組入資産の内容

※ 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第18期末 2018.7.17
S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド	21.9%
損保ジャパンーTCW外国株式マザーファンド	21.7%
S J AMスモールキャップ・マザーファンド	21.6%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	20.3%
損保ジャパン日本債券マザーファンド	7.9%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.7%

注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。



注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

● 純資産等

項目	第18期末 2018.7.17
純資産総額	12,738,786,784円
受益権総口数	8,409,821,065口
1 万口当たり基準価額	15,148円

※ 当期中における追加設定元本額は1,190,076,724円、同解約元本額は757,714,913円です。

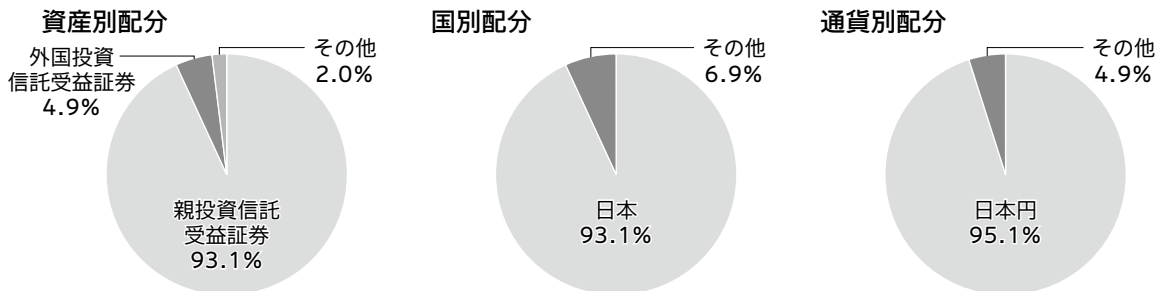
● 当該投資信託の組入資産の内容

※ 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第18期末 2018.7.17
損保ジャパン日本債券マザーファンド	32.7%
S J A M ラージキャップ・パリュウ・マザーファンド	15.5%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	15.3%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	15.2%
損保ジャパンー T C W 外国株式マザーファンド	14.5%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	4.9%

注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。



注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

● 純資産等

項目	第18期末 2018.7.17
純資産総額	15,282,979,036円
受益権総口数	10,240,262,112口
1 万口当たり基準価額	14,924円

※ 当期中における追加設定元本額は1,676,258,878円、同解約元本額は1,115,070,892円です。

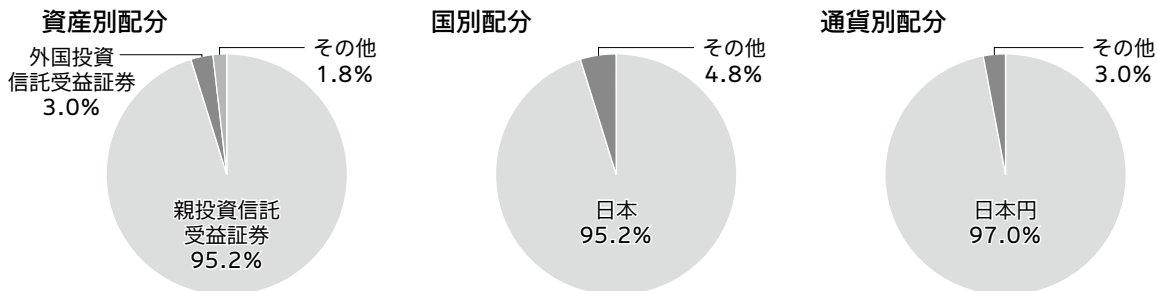
● 当該投資信託の組入資産の内容

※ 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第18期末 2018.7.17
損保ジャパン日本債券マザーファンド	56.7%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	11.3%
S J A M ラージキャップ・パリュール・マザーファンド	9.5%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	9.4%
損保ジャパンー T C W 外国株式マザーファンド	8.3%
ISHARES MSCI EMERGING MKT ETF	3.0%

注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。



注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

● 純資産等

項目	第18期末 2018.7.17
純資産総額	6,875,070,157円
受益権総口数	4,820,675,948口
1 万口当たり基準価額	14,262円

※ 当期中における追加設定元本額は971,431,975円、同解約元本額は684,746,630円です。

● 当該投資信託の組入資産の内容

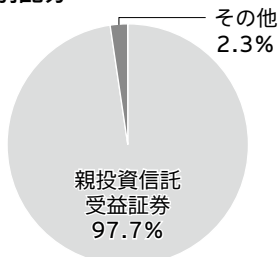
※ 全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

組入ファンド

	第18期末 2018.7.17
損保ジャパン日本債券マザーファンド	71.6%
損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド	16.0%
S J A M ラージキャップ・パリュール・マザーファンド	4.0%
S J A M スモールキャップ・マザーファンド	3.9%
損保ジャパンー T C W 外国株式マザーファンド	2.1%

注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注．比率は第18期末における純資産総額に対する評価額の割合です。

● 純資産等

項目	第18期末 2018.7.17
純資産総額	4,186,192,577円
受益権総口数	3,216,425,068口
1 万口当たり基準価額	13,015円

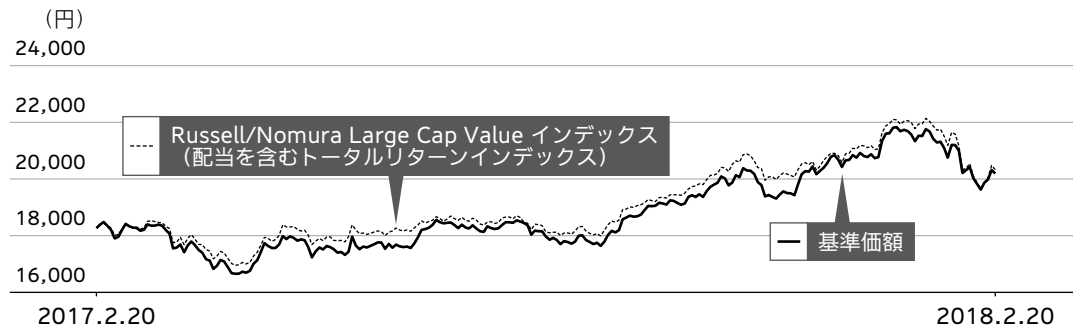
※ 当期中における追加設定元本額は671,022,511円、同解約元本額は542,867,692円です。

● 組入上位ファンドの概要

※ 組入ファンドの計算期間の詳細な運用経過および全銘柄に関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

S J AMラージキャップ・バリュー・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Large Cap Value インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2017年2月20日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

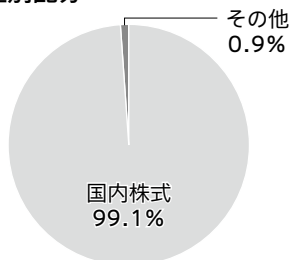
1万口当たりの費用明細

項目	2017.2.21～2018.2.20
売買委託手数料	29円
(株式)	(29)
その他費用	0
(その他)	(0)
合計	29

組入上位10銘柄

銘柄名	業種	比率
1 新日鐵住金	鉄鋼	7.9%
2 本田技研工業	輸送用機器	7.6%
3 第一生命ホールディングス	保険業	7.4%
4 三菱重工業	機械	7.3%
5 三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	6.7%
6 ジェイ エフ イー ホールディングス	鉄鋼	6.2%
7 野村ホールディングス	証券,商品先物取引業	5.5%
8 三井住友トラスト・ホールディングス	銀行業	4.8%
9 KDDI	情報・通信業	4.6%
10 みずほフィナンシャルグループ	銀行業	4.6%
組入銘柄数		26銘柄

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

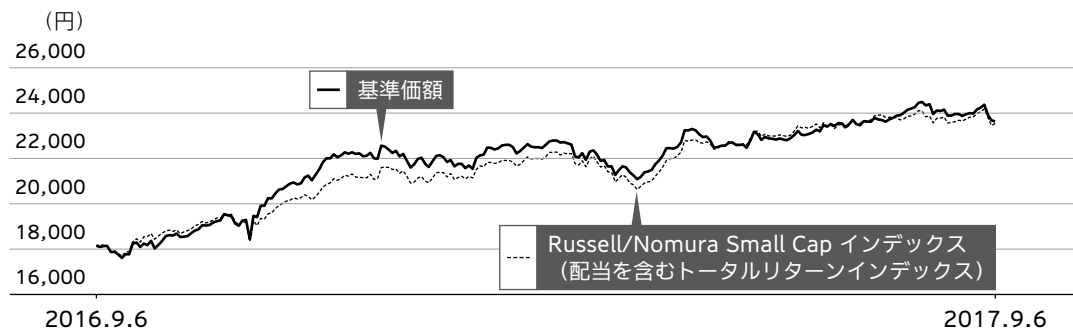
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2018年2月20日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



S J AMスモールキャップ・マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（Russell/Nomura Small Cap インデックス（配当を含むトータルリターンインデックス））の推移は、2016年9月6日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

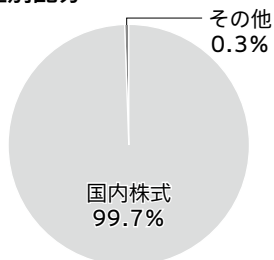
1万口当たりの費用明細

項目	2016.9.7～2017.9.6
売買委託手数料	25円
(株式)	(25)
その他費用	0
(その他)	(0)
合計	25

組入上位10銘柄

	銘柄名	業種	比率
1	ケースホールディングス	小売業	3.5%
2	ジーエス・ユアサ コーポレーション	電気機器	3.2%
3	シチズン時計	精密機器	3.2%
4	伊予銀行	銀行業	2.9%
5	住友倉庫	倉庫・運輸関連	2.3%
6	エクセディ	輸送用機器	2.3%
7	ゼビオホールディングス	小売業	2.3%
8	カプコン	情報・通信業	2.2%
9	ADEKA	化学	2.2%
10	大和工業	鉄鋼	2.2%
組入銘柄数		84銘柄	

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

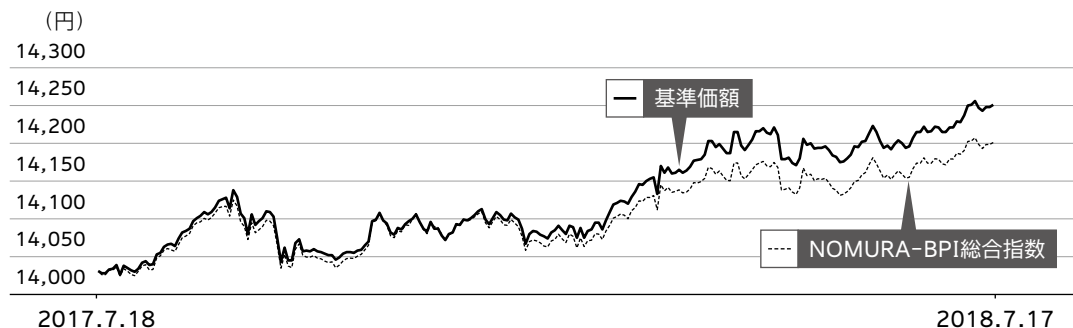
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2017年9月6日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン日本債券マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（NOMURA-BPI総合指数）の推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

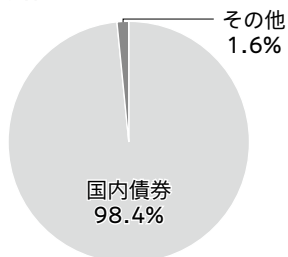
1万口当たりの費用明細

項目	2017.7.19～2018.7.17
その他費用	0円
(保管費用)	(0)
(その他)	(0)
合計	0

組入上位10銘柄

	銘柄名	証券種類	償還日	比率
1	345 10年国債	国債証券	2026/12/20	13.9%
2	154 20年国債	国債証券	2035/9/20	6.7
3	390 2年国債	国債証券	2020/7/1	6.0
4	150 20年国債	国債証券	2034/9/20	5.3
5	35 30年国債	国債証券	2041/9/20	4.6
6	146 20年国債	国債証券	2033/9/20	3.4
7	38 30年国債	国債証券	2043/3/20	3.1
8	349 10年国債	国債証券	2027/12/20	2.7
9	58 30年国債	国債証券	2048/3/20	2.6
10	158 20年国債	国債証券	2036/9/20	1.8
組入銘柄数			81銘柄	

資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

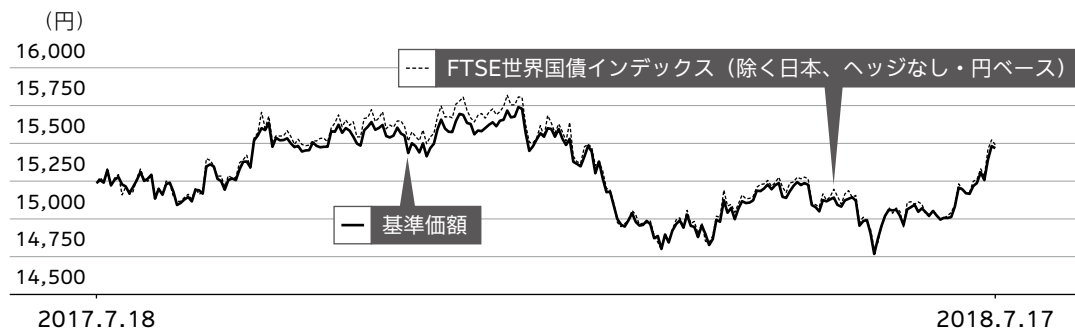
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2018年7月17日）現在のものです。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン外国債券（為替ヘッジなし）マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース））の推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

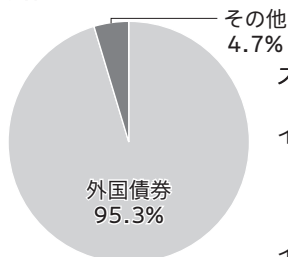
1万口当たりの費用明細

項目	2017.7.19～2018.7.17
その他費用	6円
(保管費用)	(6)
(その他)	(0)
合計	6

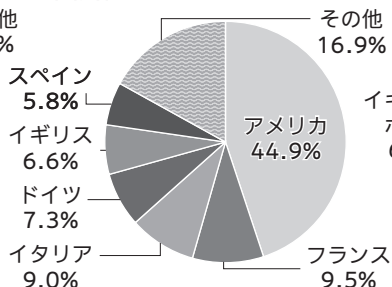
組入上位10銘柄

	銘柄名	債券種類	通貨	償還日	比率
1	US TREASURY N/B 2.25% 2020/02/29	国債証券	アメリカ・ドル	2020/2/29	13.7%
2	US TREASURY N/B 1.875% 2022/02/28	国債証券	アメリカ・ドル	2022/2/28	8.8%
3	BUNDESOBL-175 0.0% 2022/04/08	国債証券	ユーロ	2022/4/8	6.6%
4	US TREASURY N/B 2.125% 2024/02/29	国債証券	アメリカ・ドル	2024/2/29	5.9%
5	US TREASURY N/B 2.75% 2028/02/15	国債証券	アメリカ・ドル	2028/2/15	3.9%
6	US TREASURY N/B 1.25% 2019/06/30	国債証券	アメリカ・ドル	2019/6/30	3.9%
7	FRANCE O.A.T. 0.0% 2022/05/25	国債証券	ユーロ	2022/5/25	3.5%
8	BTPS 1.35% 2022/04/15	国債証券	ユーロ	2022/4/15	2.7%
9	US TREASURY N/B 3.0% 2048/02/15	国債証券	アメリカ・ドル	2048/2/15	2.5%
10	FRANCE O.A.T. 1.0% 2027/05/25	国債証券	ユーロ	2027/5/25	2.3%
組入銘柄数			117銘柄		

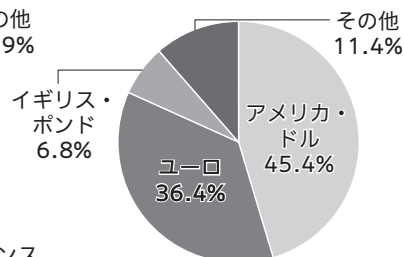
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものです。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

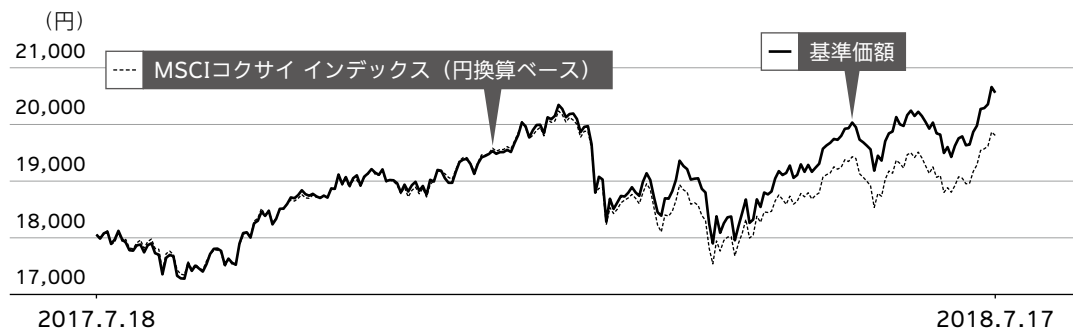
注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2018年7月17日）現在のものです。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。



損保ジャパン T C W外国株式マザーファンド

基準価額の推移



- ベンチマーク（MSCIコクサイ インデックス（円換算ベース））の推移は、2017年7月18日の基準価額をもとに委託会社にて指数化したものを使用しております。

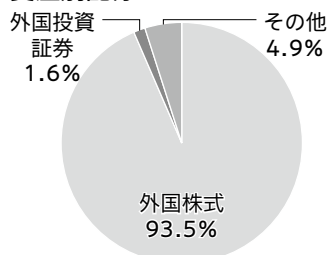
1万口当たりの費用明細

項目	2017.7.19～2018.7.17
売買委託手数料	12円
(株式)	(12)
(投資証券)	(0)
有価証券取引税	2
(株式)	(2)
(投資証券)	(0)
その他費用	9
(保管費用)	(9)
(その他)	(0)
合計	23

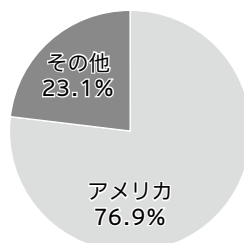
組入上位10銘柄

銘柄名	業種	通貨	比率
1 TRANSUNION	資本財・サービス	アメリカ・ドル	4.4%
2 BAXTER INTERNATIONAL INC	ヘルスケア	アメリカ・ドル	2.4%
3 MICROSOFT CORP	情報技術	アメリカ・ドル	2.1%
4 VISA INC-CLASS A SHARES	情報技術	アメリカ・ドル	1.9%
5 FACEBOOK INC-A	情報技術	アメリカ・ドル	1.8%
6 ROPER INDUSTRIES INC	資本財・サービス	アメリカ・ドル	1.7%
7 AMAZON.COM INC	一般消費財・サービス	アメリカ・ドル	1.5%
8 JP MORGAN CHASE & CO	金融	アメリカ・ドル	1.4%
9 IDEX CORP	資本財・サービス	アメリカ・ドル	1.4%
10 ALPHABET, INC	情報技術	アメリカ・ドル	1.3%
組入銘柄数		207銘柄	

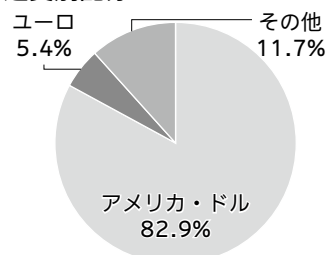
資産別配分



国別配分



通貨別配分



注1. 基準価額の推移、1万口当たりの費用明細は組入ファンドの直近の計算期間のものであります。

注2. 1万口当たりの費用明細は各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。なお、費用項目については13ページ（1万口当たりの費用明細の項目の概要）をご参照ください。

注3. 組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別配分のデータは組入ファンドの直近の決算日（2018年7月17日）現在のものです。資産別配分および国別配分のその他には、現金等が含まれます。

注4. 比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

● 指数に関して

当ファンドのベンチマークについて

個別資産毎のベンチマークを基準資産配分比率で加重平均したもので個別資産毎のベンチマークは次の通りです。国内株式：東証株価指数（TOPIX）、国内債券：NOMURA-BPI総合指数、外国債券：FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）、外国株式：MSCIコクサイ インデックス、（円換算ベース）、エマージング株式：MSCIエマージング・マーケット・インデックス（円換算ベース）、短期資産：有担コール翌日物

「代表的な資産クラスとの騰落率の比較」に用いた指数について

■ 東証株価指数（TOPIX）（配当込み）

東京証券取引所第一部上場全銘柄の基準時（1968年1月4日終値）の時価総額を100として、その後の時価総額を指数化したものです。東証株価指数（TOPIX）は、東京証券取引所の知的財産であり、東京証券取引所は、TOPIXの算出もしくは公表の方法の変更、TOPIXの算出もしくは公表の停止またはTOPIXの商標の変更もしくは使用の停止を行う権利を有しています。

■ MSCIコクサイ・インデックス（配当込み、円ベース）

MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界主要国の株価指数を、各国の株式時価総額をベースに合成した株価指数です。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）

MSCI Inc.が開発した株価指数で、世界の新興国で構成されています。MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、円換算ベース）は、MSCIエマージング・マーケット・インデックス（配当込み、米ドルベース）をもとに委託会社が独自に計算したものです。同指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利はMSCI Inc.に帰属します。また、MSCI Inc.は、同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。

■ NOMURA-BPI国債

野村證券株式会社が公表する国内で発行された公募利付国債の市場全体の動向を表す投資収益指数です。NOMURA-BPIに関する一切の知的財産権その他一切の権利は、すべて野村證券株式会社に帰属します。野村證券株式会社は、ファンドの運用成果等に関して一切責任を負いません。

■ FTSE世界国債インデックス（除く日本、ヘッジなし・円ベース）

FTSE Fixed Income LLCにより運営され、世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した債券インデックスです。同指数はFTSE Fixed Income LLCの知的財産であり、指数に関するすべての権利はFTSE Fixed Income LLCが有しています。

■ JPモルガンGBI-EMグローバル・ディバーシファイド（円ベース）

J.P. Morgan Securities LLCが算出し公表している指数で、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。同指数の著作権はJ.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

ホームページにて各ファンドの詳細をご案内しております。

検索

それぞれのファンド名をご入力下さい。

ハッピーエイジング20

<http://www.sjnk-am.co.jp/fund/0883/price.html>

ハッピーエイジング30

<http://www.sjnk-am.co.jp/fund/0884/price.html>

ハッピーエイジング40

<http://www.sjnk-am.co.jp/fund/0885/price.html>

ハッピーエイジング50

<http://www.sjnk-am.co.jp/fund/0886/price.html>

ハッピーエイジング60

<http://www.sjnk-am.co.jp/fund/0887/price.html>



各書類の最新版をご確認いただけます。

交

交付目論見書

当ファンド購入に際して投資判断に必要な重要事項をご説明しております。

運交

交付運用報告書

当ファンドの運用状況について重要な事項をご説明しております。

休

海外休業日 (申込不可日)

購入・換金の申込不可日をご案内しております。

請

請求目論見書

交付目論見書より詳細な当ファンドの情報をご説明しております。

運全

運用報告書（全体版）

交付運用報告書より詳細な運用状況をご説明しております。

販

販売用資料

目論見書を補完する内容をご説明しております。交付目論見書と併せてご覧ください。

月

最新月次レポート

当ファンドの運用状況を月次でご説明しております。

本報告書作成時点のものを掲載しております。